

日本海ケーブルネットワーク株式会社（NCN）

2017年度放送番組審議会議事録

■日時：2018年2月15日（木）午後1時半～3時

■場所：NCN鳥取放送センター6階会議室（鳥取市富安2丁目137番地）

■出席者

審議委員：河村壮一郎（会長、鳥取短期大学教授）、福田京子（副会長、地域づくりネットワーク代表）、山根寿彦（鳥取市情報政策課長補佐兼情報政策係長＝代理出席）、美船誠（倉吉市企画振興部次長兼総合政策課長）岩本浩嗣（三朝町企画観光課地方創生戦略室主任＝代理出席）坂口雅人（岩美町総務課長）藤井博美（三朝町三朝区長）佐々木千代子（いんしゅう鹿野まちづくり協議会理事長）中野卓（鳥取銀行本店営業部次長）

※役職は当時、敬称略、順不同

NCN：西尾広海（取締役常務執行役員総局長兼総務部長）、河崎誠（執行役員総局次長兼編成制作部長）中嶋信行（執行役員倉吉放送センター長兼制作担当）清水隼人（倉吉放送センター制作担当主任）荒木淑朗（編成制作部制作課主任）

■報告事項

①2017年度の取り組みについて

VTRによる番組の一例紹介、レギュラー番組、レギュラー以外の主な番組、新たな取り組みなどNCN地域情報チャンネル、減災・ライブチャンネル、岩美町チャンネル、中部チャンネルのそれぞれについて2017年4月1日から2018年1月31日までの取り組みを報告した。

■協議事項

・自主放送番組について

まちの話題を中心に上げる「ピットステーション」や地域の皆さんがイベントなどの情報発信に活用してもらおう新コーナー「みんなのイベント案内板」、日本海新聞のフラッシュニュースを活用した「ニュース撮って出し」の新設、日本海新聞の論説委員長がコーディネーターを務める討論番組「フォーカス鳥取」、県内のケーブル局との共同制作の高校野球県大会生中継や共同制作番組「とっとり魚乙女塾」など、NCNが放送した番組を紹介し、意見を募った。

委員からの意見、提言と事務局の回答は次の通り。

(委員) 日本海新聞のニュースを活用しているということだが、新聞紙面より速く放送されるのか。

(事務局) 新聞におけるリード部分をよりコンパクトにした速報ニュースのみを活用し放送につなげることで、新聞HPと同様に紙面掲載に先がけて露出している。

(委員) これまでNCNの話題は、地域のほのぼのネタが中心だったが、このニュース速報で事件、事故の大枠を捉えることができるようになり重宝している。

(委員) 地元の風景などをナレーションなしで放送しており癒される。・
地域の伝統行事や敬老会などの話題もこれまで以上に上げて欲しい

(委員) 地元自治体の選挙をリアルに伝えられるのはケーブルテレビならではの、開局時から継続しているとのことだが、今後も期待したい。

(委員) 雪害対策などニュース映像を見て現場の苦勞が伝わった。今後も地域の生活に役立つ情報発信に努めてもらいたい。

(委員) 民放では、コメンテーターの番組出演があると思う。地域に関連した語り手に出演してもらってはどうか。

(事務局) 地域の話題を掘り下げる解説者の活用を今後検討していきたい。

(委員) 岩美町チャンネルとNCNの自主チャンネルとの相乗効果が得られるような取り組みに期待したい。

(委員) 地域の人の顔が見える番組がケーブルテレビの特長。自分、家族、地域の人が画面に登場し、ほっこりしたり、励まされたりすることが多い。エリア外での取材でも、県民が活躍する姿を捉えて欲しい。

(委員) 日本海新聞との連携は大きな武器。有事の際、大きな力となるのが普段の地域密着。これからも住民に近い存在であって欲しい。

(委員) 地域制作の映画を年始にまとめて放送していて見逃していたので有難かった。
幼稚園、保育園の園児を取り上げる番組は、保護者会などでも話題になる。
ネットがフックになることも多い。活用して情報発信しては。

(事務局) 新聞紙面、番組宣伝などに加えてSNSでの情報発信にもより一層取り組んでいきたい。

(委員) 地域の皆さんが撮影、編集した手作り動画が流せないか。

(事務局) 番組制作に取り組んでいる学校などもあり、紹介できないか打診中。市民からの提供も受けられるよう枠組みを構築したい。

(委員) キャスターが緊張感からか掛け合いの際に不自然にのけぞる姿勢をすることが多々ある。直した方が良いのでは。

(委員) まつり中継の撮影カメラの台数を増やして、たくさんの方が映るように取り組んで欲しい。

(委員) 警察、消防、自衛隊など危険業務に携わる職業をシリーズで紹介してほしい。

(事務局) ご意見や、提言をもとに改編しながら番組制作を検討したい。